

まなびの部屋

今月のおすすめ本



虫は「ごちそう」！
野中健一…著

皆さんは、虫が食べられることを知っていますか？「えーっ、気持ち悪いー！」という声が聞こえてきそうですが、日本でもバッタの一種イナゴやハチの幼虫が食べられています。世界のさまざまな昆虫食を通じて、そこに住む人々の暮らし、価値観、環境などを学ぶことができる一冊です。

今月の月末図書整理日（お休み）は、
6月30日（水）です。
■貸し出し・問い合わせ先
瀬戸内市立図書館 ☎0869-22-3761
長船町公民館図書室 ☎0869-26-2501
牛窓町公民館図書室 ☎0869-34-5653
HP <http://lib.city.setouchi.lg.jp/>



一緒に歌いませんか

「歌う会 夕焼け小焼け」では、童謡など、誰もが知っている歌を歌っています。皆さんも会員になって一緒に歌いませんか。楽しく歌って、日々の生活に潤いを持ちましょう。

▽日時 毎月第1、3木曜日 午前10時～正午

▽場所 中央公民館

■問い合わせ・連絡先
歌う会 夕焼け小焼け
石黒さん

☎086912213197



13歳の進路

村上龍…著

各種学校や資格など、厳しい社会を生き抜くために必要な能力をどう培ったらいいかを分かりやすく説明。また、特別編として、有名企業の就職アドバイスなどを掲載しています。自分の将来を自ら「選びとる」ためのヒントが満載です。

Books

▽講座内容
① 6月17日（木）
自分らしく生きるために「つれづれ」の境地を知る。

② 6月24日（木）
世間の正体を観、人と付き合う極意を知る。

③ 7月1日（木）
とめどない欲望を捨て、心穏やかに暮らすあり方を知る。

④ 7月8日（木）
わが身を支える品性と教養を高める術を知る。

⑤ 7月15日（木）
限りある人生の極め方を知る。

■問い合わせ・申込先
中央公民館

☎086912213761

徒然草

著者は、吉田兼好（兼好法師）。1330～31年ごろに書かれたもので、全2巻。「つれづれなるままに、日ぐらし（つれづれ）にむかひて…」から始まる序段のほか、随想・見聞などを著者の心に浮かぶままに書きつづった243段から成り立っています。清少納言の「枕草子」、鴨長明の「方丈記」と並び三大随筆の1つとされています。



吉田兼好

瀬戸内発見伝

巻の六十五

弘法寺の脚ねり供養

今年も5月5日に弘法寺（牛窓町千手）で「脚供養」が行われました。

脚供養は、阿弥陀如来と二十五菩薩が死者を迎え、極楽往生を成就する場面を再現するという仏教行事で



観音菩薩へ渡される中将姫の像

す。もともとは「迎接会」（らいごうかい）などといい、平安時代中期以降、各地で盛んに行われるようになったといわれています。平安時代中期には、疫病や戦争がたびたび発生し、「この世は汚れた所だ」「死んだら極楽浄土に行きたい」と考える風潮が強くなりました。その中で、亡くなった人を迎えに来て、地獄に落ちないように極楽浄土に連れて行ってくれるのが阿弥陀如来や二十五菩薩だと考えられたのです。江戸時代以降は、僧侶や観音菩薩などの一行が練り歩く様子から、「ねり供養

（脚供養・練供養）」という呼び方が一般的になったようです。

弘法寺の脚供養

弘法寺の脚供養は、鎌倉時代後期（13～14世紀）に始まったものと考えられており、大変古い歴史を持っています。

昭和42（1967）年まで行われていた脚供養は、現在は失われた本堂・如法経堂（普賢堂）や多宝塔の周辺で行われていました。そこでは、如法経堂で法要が行われた後、僧侶や稚児、面をつけて観音菩薩・地藏菩薩などに扮した聖衆の一行が、本堂から行道橋を渡って多宝塔の前まで行きます。

多宝塔の前では「中将姫」の像が観音菩薩によって蓮台に乗せられます。これは、この世で亡くなった中将姫を浄土から観音菩薩が迎えに来て救済したことを表しています。中将姫とは、仏を深く敬い、奈良當麻寺の曼荼羅を織ったという伝説の女性です。

観音菩薩に救われた中将姫は、一行とともに浄土に見立てられた常行堂まで連れて行かれ、地元の男性が「被仏」と呼ばれる木彫の像をかぶって扮した阿弥陀如来に迎えられます。そして、中将姫や一行が常行堂、つまり浄土に招き入れられて行事は終わります。

貴重な文化財

昭和42年に本堂や多宝塔



岡山県指定重要文化財「被仏」。中は空洞となっており、胸部にのぞき穴があります。

を失う火災があつて、脚供養はしばらく中断していました。その後、地元の人々を中心に復活に向けた活動が進められ、平成9（1997）年5月、見事に復活を遂げました。現在では、岡山県重要無形民俗文化財にも指定されています。

行事の復活に先立ち、被仏や行道面も修復されました。被仏は鎌倉時代、行道面は鎌倉時代末から室町時代のものとみられている大変貴重な文化財です。弘法寺の脚供養は、ほかにも中世にさかのぼる古い用具が伝えられており、行事そのものとも関連する文化財の多さでも非常に貴重なものとなっています。